

<p>太陽の家 池部</p>	<p>・家、公民館で計画しているが、企画段階で当事者の声を踏まえてすると良いのでは。車椅子の方、視覚障害のかた来たらどうするか等予想しなかった場合のリスクについて考えられる。</p> <p>各市町村に自立支援協議会があるので、必ず当事者等が入っているので聞いてもらえたらご検討ください。</p>
<p>社会教育課 首藤</p>	<p>青少年の家について、昨年実施してみてもトイレの位置や動線等反省があった、いかに打合せや下見の重要性を感じたので、今年度は準備段階を充実させたいと思う。当事者の声を入れていくことが課題。</p>
<p>由布市：松本</p>	<p>由布市も支援協議会に声かけて委員になってもらおう。障害のある職員もいるので聞いている。</p>
<p>座長：岡田</p>	<p>それぞれで粛々と進めるではなく、連携しながら進めていけるとよい。</p> <p>プログラムとプログラムのつなぎ目を。</p> <p>今年度見学していきたい。大学も連携していく。3年目がくるので、それが終わった後に残せるようにしたい。</p>
<p>県精神保健福祉会：神田</p>	<p>あまり精神障がいの方対象の講座などが無い。</p> <p>公民館活動等にも参加していけたら一番良い。理解等どこで進めてもらえるか、今後盛り込んでもらいたい。</p>
<p>座長：岡田</p>	<p>足りてない対象、始めやすい対象がありますが、どう広げたりつなげていけたらよいか、障がいのある人同士【種類】の交流、ある人ない人の交流も今後共通の課題意識をもちたい。</p>
<p>芸術文化支援センター：横山</p>	<p>由布市の公民館講座の対象が卒業生というのはなぜかな、と。</p> <p>由布市8月のオープンアトリエに来てもらって今進めているが、一緒にできたら良かった。</p> <p>障害あるうがなかりうが、で対象しているので、(福祉課)一緒に絡んでいきたいし利用してもらいたい。学校卒業しても楽しいことあるんだ、ということ感じてもらいたいし楽しい場の準備をしていきたい。</p> <p>働きながら余暇活動を充実させてもらいたい。</p> <p>是非今後協力していきましょう。</p>
<p>由布市：衛藤</p>	<p>ポンチ絵より。卒業後の、とあるので卒業生にポイントをあてている。</p> <p>今後は障がいのある方もない方も、ということで進めていきたい。</p> <p>福祉課とも今日報告して進める。</p>
<p>ヨカたの：松尾</p>	<p>豊後大野市は、2年目で7項目の講座をするのがすごい。ヨカたのは、一年目一桁の7名参加者。</p> <p>支援学校卒業生だけではなく広げていけたら。現在の参加者は？</p>

	<p>うちの参加者は知的が多いが精神の方もいらっしやる。 どこでもやっていけますというスタンス。 3年終わっても財産として残っていけるようにしたい。 一生懸命やってることが皆さんに伝わって行くようにホームページやパンフ、テレビ局等を活用するべき。 YouTubeも固定客いるが、広げるのは難しいがやっていけたら。</p>
ダンス：麻生	<p>知的のうち3分の1くらい精神もいるのではないかと感じている。 宮崎の友人（精神障がい）施設に入っているが、自分も勉強したい。 知的ある方が踊る姿を障がいのない方に見て欲しいと感じている。メディアで取り上げてもらえたら良いのかと感じている。</p>
座長：岡田	<p>いろんな入り口を準備して、自分の興味のあることから入って、そこから居心地の良い居場所的なものにつながると良い（イメージとして）</p>
宇佐自立：石川	<p>昨年かかちワンディで関わりがあって参加した。 昨年半数くらい精神（障がい）の方 たばこ吸いたいという声がある。 わかりやすくすると良い。</p>
座長：岡田	<p>あらかじめこんな時はこう対処したという事例がストックされると良い。</p>
豊後大野：野中	<p>広がりの形を作る。 支援学校と作業所に声かけしている。 3月の卒業式に昨年度の取組をまとめたものを送る。 令和4年度は5名卒業者だが今のところ問い合わせはない。 多くは作業所。ケーブルテレビを見た方が2名。 平日開催しているが作業所の送迎の関係で難しいことも。 10数名お話しもっているところ。 福祉とアートの会、佐藤さん千歳出身、舞台芸術多くの観客があったので、今後協力者として声かけをしていく。</p>
座長：岡田	<p>特別支援学校からの問い合わせはないとのことだが、これが広がると3年終わったとき状況も変わるかも。</p> <p>（普及啓発）について</p>
麻生	<p>インクルーシブな世界とは障がいのある方とない方がなんなく生活することだと思いが、いかに健常者に近づけられるか、という方向になっていることを危惧している。障がいがある人たち独自の面白さをわかってもらいたい ダンスのモデルをして、それを自分なりに理解して踊るで。</p>

座長：岡田	この観点はいつも頭に。ありのままを認めたり、障害のない人が知ることでもっと関わることがあるということなど、時折考えながら進めてもらえたら。
太陽の家 ：池部	人材育成（研修）。研修広がると良いが、学習を進める上で、ボランティアに頼っている、となるとボラがいないと教室出来ない、とかではなく、支援者が増えると良い！修了証等を渡したりして今後も活動してね、という県として増やしていきたいという方向性が見えるような形が良い。
社会教育課 馬場	研修 7月5日の分は公民館の職員だけではなく、講座での支援者の方も含めて7月14日の分は公民館職員という2つの研修の棲み分けをしている。
座長：岡田	公民館職員がああよかったなあで終わらないために、地域に持って帰ってフィードバックしてみました！というものまでであると効果的か。宿題増やす形にはなるが…。
手をつなぐ育成 ：藤近	<p>障がい者だけのフットサルリーグ立ち上げた。</p> <p>健常者の中に当事者が入ることが増えて疲れている部分がある。世話をされているということもある。あるなしに関係なく、ということも大事かもだが、困難があった時、どうしたら乗り越えられるかを考える場、機会も含んでもらいたい。</p> <p>「かたろうえ」(を見た方から)3件問い合わせがあった。自分たちも「かたろうえ」の紹介をしてなかったので広げます！</p>
座長：岡田	みんな一緒に、と考えることが多いが、あえて当事者同士でやあえて困難に立ち向かう、なども。
大分支援： 清末	<p>研修は座学？ 演習もある。</p> <p>当事者と関わらないと実際にどんな支援が、等理解が進まない。</p> <p>手を出しすぎることもあるので、たくさん関わっていかないとわからないこともあるので実技も組み込みながら、講座にも参加してもらいながら（座学と実践を）。</p>
座長：岡田	普段からの蓄積のある方にどう参加してもらうか、支援者にどう関わってもらうか、参加している一般の方の接し方今後も。
ダンス：麻生	<p>「支援をしてあげる」言葉はやめよう。</p> <p>待って、どうしても出来ないことは一緒にする等。</p>
座長：岡田	<p>15：09 休憩入るが、（3）障がい当事者の意見を反映する仕組み作りについては次回</p> <p>1 団体 2 分以内（90 秒程度）</p>

<p>大分支援： 清末</p>	<p>(2)現状、自己紹介含めて 卒業した子ども達がどれくらい生涯学習に取り組んでいるか、把握ができていないので申し訳ないが、今いちばん困っているのが陸上部を卒業した者達がまだやりたいと言っているが、やる場がないこと。早く仕事が終わった子達が部活にきて、一緒にやったりしているが・・・。</p> <p>サッカーやフットサルなど、特化した形のスポーツ活動はあるが、陸上や他のスポーツを考えていると、体育保健課が総合型地域スポーツクラブを各市町村にいっぱいつくってきた、そういったところでのスポーツに関する実践を、公民館と同じように障がい者を受入れる体制をつくってほしい。将来的には部活が地域移行にしていこうとしている。特別支援学校も同じだと思う。そうするとどこでやるのかという話が出てくるので、県教育委員会がこの事業を受けているのであれば、体育保健課も委員として入れて、総合型地域スポーツクラブも、障がいがある方のことも考えてもらえればよいのかと。</p> <p>子ども達も1人1台端末あるので、小学部の子ども達もYouTubeを見れる。検索できる。</p> <p>知的障がいの子供達は文字を見ただけでは分からないので、何をするか分からないと不安で行かなくなる。例えばこんな講座ですよというのは映像でつくると、面白そうだと参加してみたいくなる。</p> <p>取組をコンテンツとしてHPに載せていくとよい。</p>
<p>あすぴあ：加藤</p>	<p>パンフ(センターの案内) 今年度教室、大会等載せている30年選手の講師や参加者もいる。 同じメンバーだったが、もっとしたいから等で仲間同士でやってもらいたいの が理想。 ポッチャクラブ作って毎週活動していることもあって嬉しい。 仲間で生涯いろんなサークル作ってもらいたい(スポーツも文化も) 郊外も市内の方も。 公民館の方がポッチャ等してもらったが、講師が少ない、講師育成したいが、それは経験と気持ち！失敗しながらしていただける方いたらお願いしたい！先生もなにかもなみんなが楽しめる教室運営をしたい。運営する側も楽しむ！ 県内広がったら。</p>
<p>県障害者社会参加推進センター ：高窪</p>	<p>冊子より 昨年度の活動実績、競技会作ってやっている。 今年度の計画 作品募集も 精神の方の相談が多くあるが、居場所の大切さ。学びの場が居場所につながっていけると期待している。</p>
<p>太陽の家： 池部</p>	<p>就労支援主として関わる。 就労訓練がメインとなっているので、学習の場の提供が難しい。</p>

<p>自立支援センター おおいた：五反田</p>	<p>母体が大きいので、仕事をどう提供するかに職員は奔走している。学びの場まで手を伸ばすのは難しいか。施設の方とどう協力していくかも大事か。スポーツ関係、指導力の低下（コロナで）なので、今後の課題。</p> <p>車椅子、視覚障害の体験イベントしている。</p> <p>8月田浦で、海に入れるんだよ、というイベント計画中。</p> <p>参加者の募集今後。</p> <p>チラシ配ったが情報発信大事。バリアを知らせたり、7月5日ぜひ。</p>
<p>豊後大野：神田</p>	<p>2年目の取組。</p> <p>モデル公民館の話、行政だけではという感覚 福祉課の経験から各施設や当事者</p> <p>1年間したが、社会教育も福祉も一緒に進める！</p>
<p>大分市社会教育課：工藤</p>	<p>令和3年度の社会教育委員の提言を受けてどう進めていくか始めた</p> <p>昨年度は研修をし、坂ノ市公民館が今年度から動いた。ふれあい運動遊び、ポッチャ、卓球、ポッチャが2回。</p> <p>地域の方も巻き込んでしている。交流が続くように。</p> <p>ポッチャやボラに関心ある方もどうぞ、無料なので途中からも良いよ、というスタンスで。</p> <p>ボラも地域の方から9名に。（後期の卓球サークルの方）</p> <p>一緒に楽しむ。</p> <p>13公民館から1つのみ取組（3～4はやってみたい声有）</p>
<p>ソニー太陽：佐藤</p>	<p>社員の6割障がいあり</p> <p>CSR：プログラミングワークショップ年間30回。全国で。</p> <p>ボラでしているのではなく、仕事でしている。</p> <p>子ども対象で活動しやすさはある。</p>
<p>精神保健福祉会：神田</p>	<p>余暇活動の機会提供は事業所だが、今のB型事業所は働くところですから、というスタンス。協力が得られづらいか。</p> <p>また、精神障害ということ地域にオープンにすることも厳しい。家族に訴えてもなかなか。芸術、文化、スポーツどれを取っても機会が持てない。オープンに、が受け入れられない社会なのか、理解が難しい。</p>
<p>手をつなぐ育成会：藤近</p>	<p>ボランティアは大変。エントラダ（NPO法人知的障がい者フットサルクラブ）では「飲み物買ったら、、、時間に遅れたら、、、親が亡くなったら、、、」とどんな生活になるか、一緒に考える。運転免許がない子がいて、自転車で往復している子もいる、、</p>
<p>ダンス：麻生</p>	<p>「うまい」は使わない。「すごい」「いいなあ」とか。</p> <p>知的の年齢高い方は関節の意識（動き）がない方が多い。</p>

	<p>コロナは苦しかった（人数もボラも減って）が、利用者同士の関わりが増えた。保護者の協力も増え、自分の子どもだけでなくみんなを見守り言葉をかけるようになった。</p>
ヨカたの：松尾	<p>コロナで100人弱だったが、100越えになった。サッカースタートした。地域を知る上で登山は良い。佐賀関、ガンジーファーム、御池など。</p>
芸術文化支援センター：横山	<p>昨年度の取組報告書より。 精神の相談が増えている。 コトブキヤ2階での創作活動は月一だが、午前午後1回ずつにして、今までの2倍に増やした。毎回たくさんの利用者がある。 11月に企画展をする。 OPAM2階のギャラリーマポ（マジックポケット）では常設。 7月2日朝倉文夫の企画展をし、彫刻に触る体験をする。 人材育成の取組として、小学校に行く取組（八幡小学校、津久見の小学校） 事業所アンケートでは認知度が7割程度だった。プレスリリースでメディアに取り上げてもらい、行ってみようか、こんなことあるんだと思ってもらえるよう。「かたろうえ」にも行事を載せているが、何かありますか、と（社会教育課から）聞いてもらいたい面もある（忘れてしまうことも） 自分たちは「ハブ」の役割で、どこかにつながる、どこかにつなげると考えてますのでどんどん利用してください。</p>
宇佐自立支援協議会：石川	<p>地域の個別の困りを地域の困りとして官民で取り組んでいく仕組み作りが必要。余暇・移動・居場所の話があったが、地域生活支援事業の予算を引っ張ってきて出来る。音楽教室や料理教室等々、活動している。 反省として、障がい者施策ばかりなので一般施策もせねばと感じた。教育・子育て・介護など様々な連携をしていかなければ。 豊後大野の事業所との連携で、地域のパン屋「はなはな」：『ごくありふれた社会支援』との活動はとても良いのではないか。地域住民や大学の方とコンタクト取っていきたい。</p>
座長：岡田	<p>いろいろヒントがあった。 意外と場はあるがバラバラに存在している。それを利用する機会提供をつなげていく。プログラム同士であったり、参加者と提供者であったり、参加者同士であったりをつなげる、つながる役目を皆さんでしていきましょう。 次回に向けて問題提起のみ P22-23「私たちのことを私たち抜きで決めないで」とあるが、どんな形で参加を募るか、内容をどうするかなど、2月のコンファレンスで障がいのある方と一緒に考えられたら。 事例を作っていく、意見の取り入れ方なども考えていきましょう。 閉会</p>